

【がん診断時等の患者にがん診療施設（がん非拠点病院を含む）で適切に情報提供する方策の検討】  
がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供する方策に関する検討

～福岡県内および自施設における取り組みから～

（分担研究報告書）

研究分担者 藤 也寸志 国立病院機構九州がんセンター 院長

研究要旨

本研究では、科学的根拠に基づく情報提供及び均てん化に向けた体制整備のための方策を提言することを目的とする。本分担研究報告書では、がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討に関して、九州がんセンターにおける取り組み、さらに福岡県の都道府県がん診療連携拠点病院として、県全体でのがん診療連携拠点病院を巻き込んだ活動についても報告する。

数多くの活動をしているが、更なる発展のためには、他施設や他都道府県との情報共有を続けて改善を求めていくこと、さらに我々ががん診療連携拠点病院のがんに関する情報提供活動により、正しい情報ががん患者や家族に過不足なく届いているかの検証を常に行うことが求められる。

A. 研究目的

本研究では、がんを心配して情報を探し始める場面から適切にごん拠点病院等で、患者らが正しい情報を入手できるように、科学的根拠に基づく情報の提供及び均てん化に向けた体制を整備するための方策を提言することを目的とする。その中で、分担研究者として、がん診断時等の患者にがん診療施設で適切に情報提供する方策の検討を行う。本年度は、九州がんセンターにおける取り組み、さらに福岡県の都道府県がん診療連携拠点病院として、県全体でのがん診療連携拠点病院を巻き込んだ活動について報告する。

B. 研究方法

（倫理面への配慮）

個人情報扱うことはなく、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考える。

C. 研究結果

A. 九州がんセンターでの取り組み

1. がんと診断されて間もない方への情報提供資料（冊子）の配布

医師の理解および冊子活用促進のために、  
・診療科責任者の会議で説明し、外来診察時の活用を促した。  
・医師事務作業補助者にも説明し、医師が冊子を活用・配布する際のサポートを依頼した。  
・冊子配布状況は毎月、診察室および診療科毎に集計し、会議等で報告している。

・がん相談支援センター来訪者には、来訪の経緯（例：冊子を見て、医師に勧められて等）を確認している。

2. がん相談支援センターの場所、業務内容、当院の取り組みの周知

1) 紹介動画の活用

動画（①院内の道順、②相談支援センターの主な業務、③就労・両立支援、アピアランスケア、AYA 世代支援、妊孕性温存、患者サロン・患者会活動の支援）を制作し、院内各所のデジタルサイネージで放映している。今後は、院内無料放送、対外的プロジェクト（市民公開講座、病病・病診連携の会、QOL 講習会等）、病院 SNS 等での放映、発信を検討している。

2) 外来患者への案内・周知

外来患者が院内で持ち歩くクリアファイルにごん相談支援センターの情報（院内道順、業務内容等）を掲載し、繰り返し案内するようにしている。

3. 日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーターとの協働

当院薬剤部と協力して、主に県内のナビゲーター、シニアナビゲーター（大部分が保険調剤薬局の薬剤師）からの相談や活動支援を行っている。

具体的にはナビゲーター交流会の開催支援、ナビゲーター実地見学受け入れ等を行い、第4期がん対策基本計画で示されている「社会的人材リソース」の育成、活動支援に協力している。

4. 相談対応の質の維持、向上

当院の相談員は、各自が年1回は部門内モニタリングを行うとともに、診療ガイドラインの更新、

信頼できる情報の確認（例：情報サイト等の審査）を定期的に行っている。

## B. 福岡県で共有している取り組み

### 1. 福岡県がん診療連携協議会での取り組み

#### 1) 地域連携・情報専門部会

がん診療連携拠点病院等の指定に関する令和5年の新整備指針発出をきっかけに、同部会（年2回開催）での意見交換・情報共有をさらに活性化した。

令和5年度は、第1回では「患者へのがん相談支援センターの周知における課題と工夫」、第2回では「相談支援活動に対する病院のサポートと職員への周知」について各拠点病院等から発言し、意見交換を行った。

また、以前から年1回、相談支援部門のPDCAチェック結果を参加全24施設で共有している。

令和6年度は意見交換を継続するとともに、PDCAチェックは2023年修正版（都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会第21回情報提供・相談支援部会で公開）を用いることで、新整備指針の測定指標やアウトカムをふまえた活動を行っていく予定である。

#### 2) 福岡県相談支援ブロック間ミーティング

1) の下部組織として、県内4ブロックの代表と都道府県がん診療連携拠点病院2施設、行政（福岡県）をメンバーとして年4回開催している。令和5年度に組織名称、目的・協議事項等を更新した。

現在の主な活動目的は「福岡県内の各がん診療連携拠点病院等やその地域の課題を各ブロック内に留めることなく、福岡県内4ブロック（福岡、北九州、筑豊、筑後）間で相互に情報共有や検討を行うことで、福岡県下のがん相談支援体制の質の均てん化や向上を目指すこと」と定め、ブロック間、施設間、多職種間で意見交換や情報共有を積極的に行っている。

令和6年度は、現場（相談実務者、相談者：患者・家族等）の声を協議会活動に活かしていけるように、本ミーティングと地域連携・情報専門部会との連携、つながりをさらに密にしていこうと考えている。

#### 3) 令和5年度第10回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 福岡

「今こそ原点回帰！がん専門相談員の魅力・可能性を考えよう！」をテーマに開催した。九州・沖縄、全国各地の120名を超えるがん専門相談員が、相談支援の必要性や情報提供について活発な意見交換を行った。

#### 4) 都道府県拠点病院（九州がんセンター、九州大学病院）が行う相談員研修

県内相談員の相談対応および情報支援の質の維持・向上を目的として、毎年、QA（Quality

Assurance）研修などを開催している。令和6年度は、九大と連携し、九大がQA研修、九がんが情報支援研修を開催予定である。

## D. 考察

科学的根拠に基づくがん情報を迅速に国民に提供し、適切な活用につなげるには、持続可能な作成体制、質が担保された情報にたどり着きやすくする仕組み、正しい情報の活用を促す支援環境の整備が必要である。将来的に患者や市民が活用できるものを作成する前提として、本研究では、まず相談員や医療者が患者への情報支援に活用できる体制整備を目指している。結果で示したように、我々は臨床の現場で相談支援や情報提供に関して数多くの活動をしているが、このような活動が全国でどの様に、どの程度行われているかは、常に情報を共有して自施設・自県の立ち位置を認識して改善につなげなければならない。

また、最も重要なことは、我々ががん診療連携拠点病院のがんに関する情報提供活動により、正しい情報ががん患者や家族に過不足なく届いているかの検証を常に行うことである。そのためには、患者参加型研究の推進が求められると考える。

## E. 結論

九州がんセンターおよび福岡県での取り組みを提示した。常に他施設、他都道府県の活動についての情報共有をしながら、改善を求めていかなければならない。また、がん非拠点病院を含めた適切な情報を届ける方策の検討はなされておらず、今後の課題である。

## F. 健康危険情報

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

I 著書 なし

II 総説 なし

III 原著

1. Nishijima TF, Shimokawa M, Esaki T, Morita M, Toh Y, Muss HB. Comprehensive geriatric assessment: Valuation and patient preferences in older Japanese adults with cancer. J Am Geriatr Soc. 71:259-267, 2023
2. Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Miyazaki T, Morita M, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H, Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2015. Esophagus. 20: 1-

- 28, 2023
3. Okamura A, Endo H, Watanabe M, Yamamoto H, Kikuchi H, Kanaji S, Toh Y, Kakeji Y, Doki Y, Kitagawa Y. Influence of patient position in thoracoscopic esophagectomy on postoperative pneumonia: a comparative analysis from the National Clinical Database in Japan. *Esophagus*. 20: 45-54, 2023
  4. Murakami K, Akutsu Y, Miyata H, Toh Y, Toyozumi T, Kakeji Y, Seto Y, Matsubara H. Essential risk factors for operative mortality in elderly esophageal cancer patients registered in the National Clinical Database of Japan. *Esophagus*. 20:39-47, 2023
  5. Sakai M, Saeki H, Sohda M, Korematsu M, Miyata H, Murakami D, Baba Y, Ishii R, Okamoto H, Shibata T, Shirabe K, Toh Y, Shiotani A. The Japan Broncho-Esophagological Society. Primary tracheobronchial necrosis after esophagectomy: A nationwide multicenter retrospective study in Japan. *Ann Gastroenterol Surg*. 7: 236-246, 2023
  6. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1. *Esophagus*. 20: 343-372, 2023
  7. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan Esophageal Society: part 2. *Esophagus*. 20: 373-389, 2023
  8. Nishijima TF, Shimokawa M, Komoda M, Hanamura F, Okumura Y, Morita M, Toh Y, Esaki T, Muss HB. Survival in Older Japanese Adults With Advanced Cancer Before and After Implementation of a Geriatric Oncology Service. *JCO Oncol Pract*. 19: 1125-1132, 2023
  9. Yamamoto H, Nashimoto A, Miyashiro I, Miyata H, Toh Y, Gotoh M, Kodera Y, Kakeji Y, Seto Y. Impact of a board certification system and adherence to the clinical practice guidelines for gastric cancer on risk-adjusted surgical mortality after distal and total gastrectomy in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database. *Surgery Today*. 54: 459-470, 2023
  10. Shimagaki T, Sugimachi K, Mano Y, Onishi E, Iguchi T, Nakashima Y, Sugiyama M, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Cachexia index as a prognostic predictor after resection of pancreatic ductal adenocarcinoma. *Ann Gastroenterol Surg*. 7: 977-986, 2023
- IV 症例報告 なし
2. 学会発表 なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況
1. 特許取得 なし
  2. 実用新案登録 なし
  3. その他 なし